



# この人はなぜ？

いま、**日本**からできること



**UNHCR**  
The UN  
Refugee Agency

# 1. この人たちはなぜ？

1. この人たちはなぜ？ (P3)

2. 難民・国内避難民ってどんな人？ (P4-5)

3. 世界地図でみてみよう！ (P6-7)

4. UNHCRって？ (P8-9)

5. キャンプにいる難民 都会にいる難民 (P10-11)

6. 作文『国際平和のためにいま、自分ができること』 (P12-13)

7. 日本にも難民はいるの？ (P14-15)

8. いま、日本からできること (P16-17)

9. UNIQLOからできること (P18-21)

10. あなたはどのタイプ？ (P22-23)



この家族はずっとテント生活をしていて、毎日落ち着かない不安な暮らしをしています。家に帰れないのです。

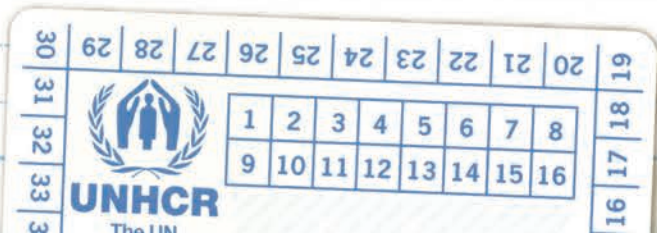


この写真の子どもたちには「ただいま」と帰る家がありません。「おかえり」と言ってくれるお父さん、お母さんのいない子もいます。

日本でも、地震や自然災害が起きたとき、避難生活をしている人たちをよくテレビで見ます。家が災害によってくずれてしまうと、学校や仮設住宅で生活をしなければならぬ人たちがたくさんいます。



しかしここで紹介する人たちはまた違った理由で避難生活を送っています。なぜこのような人たちはたくさんいるのでしょうか？



## 2. 難民・国内避難民ってどんな人？

自分の家をなくし、家族と離ればなれになったり、学校に通えなくなってしまった難民や国内避難民。自分の国の政府は十分に守ってくれないため、少しでも安全な国や地域に避難します。

このとき、車、列車、ボートを使うこともあれば、命がけて歩いて近くの国に逃げることもあります。

戦争や内戦が起きたり、宗教や人種、政治的な意見がちがうことによる迫害などが原因で、家を追われ、他の国に逃れた人たちを

「難民」といいます。

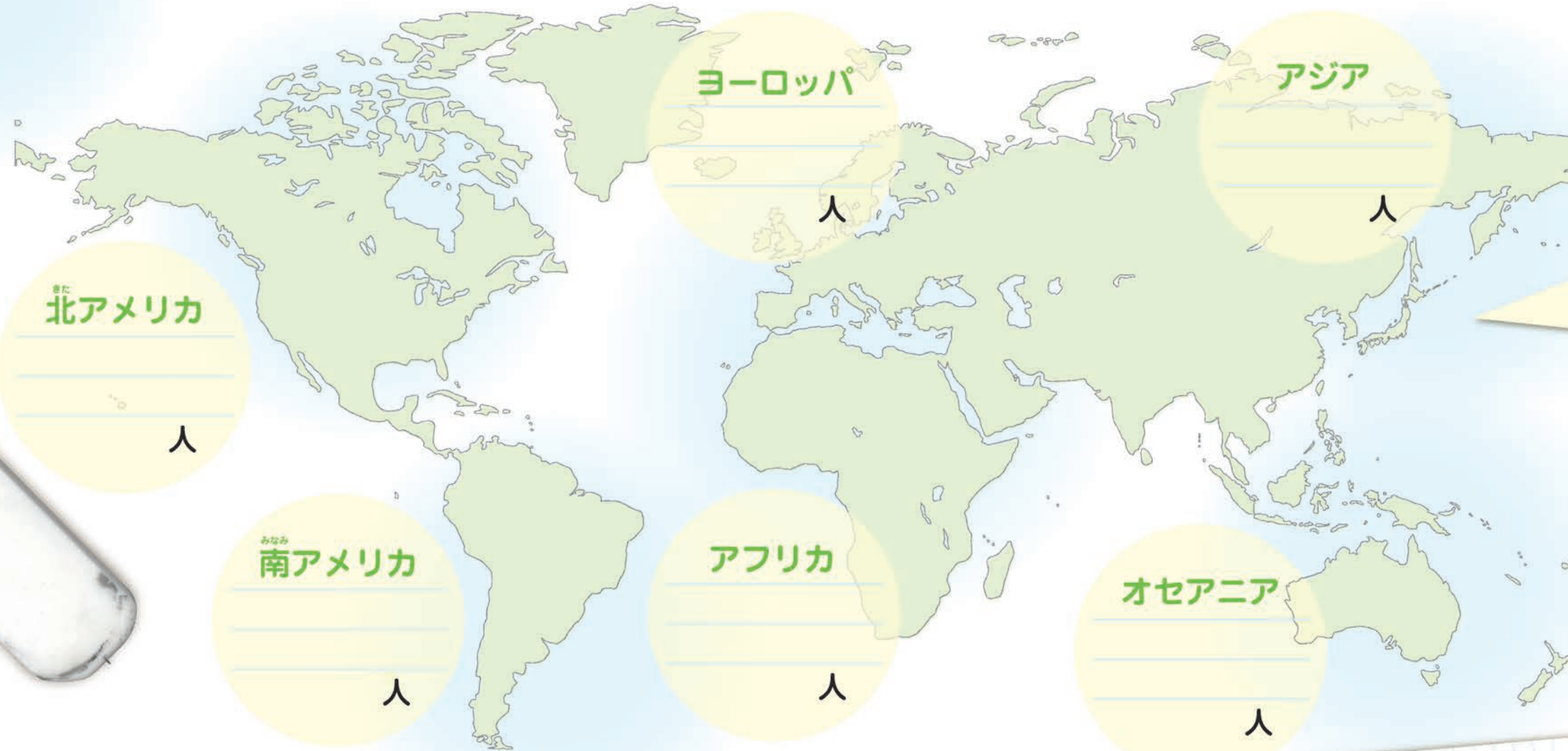
何百キロ、何千キロを何日もかけて逃げる人たちもたくさんいるのです。

また同じ理由で家を追われ、自分の国の別の地域で避難をしている人たちを

「国内避難民」といいます。

# 3. 世界地図でみてみよう!

そして日本の人口と比べてみよう。



日本の都道府県の人口  
( ) 人

わたしの家  
( ) 人

わたしたちの学校  
( ) 人

東京ドーム  
( ) 人

他には?  
( )  
( ) 人

( )  
( ) 人

( )  
( ) 人

合計 ( )

ここでは、地域ごとのUNHCRが支援する難民や国内避難民などの数を調べてみよう。

# 4. UNHCRって?

世界には戦争や内戦に巻き込まれたり、宗教や人種、政治的な意見がちがうことによる迫害などが原因で、自分の国から逃げる人がたくさんいます。

そこで1950年に設立されたのがUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）です。

UNHCRは難民・国内避難民などを国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けて活動をしています。

設立以来、UNHCRは5000万人以上の生活再建を支援し、1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞しました。

日本では1991年-2000年の間、緒方貞子さんが高等弁務官を務めたことで知られています。



UNHCRのロゴは「人を守る人の手」を意味します。世界中のたくさんの手が難民を守る手となってほしいと願っています。

難民が人として  
当たり前の権利を持つために、  
多くの手が必要なのです。



難民条約という国際的な約束ごとがあります。

「難民の地位に関する条約」(1951年成立)と「難民の地位に関する議定書」(1967年成立)を合わせたものです。難民の保護を保障し、生命の安全を確保するための大切な約束ごとです。

おぼえよう!

# 5. キャンプにいる難民

危険から逃れ、国境を越えてきた難民にとって難民キャンプは、食糧、水、医療、生活用品などを提供する一時的に避難できる場所なのです。



UNHCRは難民を保護します。また難民を受け入れる国と相談し、住む場所(難民キャンプなど)や物資、医療などをすばやく援助します。

# 都会にいる難民

迫害や紛争などから都市部に逃れてきた難民もいます。このような難民も過酷な状況におかれています。

学校に行けなかったり、仕事につくこともできない場合が多く、医療も受けられないこともあります。



UNHCRはこのような難民も保護し、少しでも状況がよくなるために活動しています。

## 6. 作文『国際平和のためにいま、自分ができること』

この作文はお父さんとお母さんが難民として日本に来た作者によるものです。  
日本で生まれ、日本に育ち、日本の学校に通う12歳の小学生です。

### 国際平和のためにいま、自分ができること

わたしが住む地域には、いろいろな国につながっている友だちがたくさんいます。ここは日本なのに、どうしていろいろな国の人が住んでいるのか、わたしはずっと前から疑問に思っていました。なぜならわたしもそのうちの一人だからです。

わたしは日本で生まれました。だからわたし自身、自分のことを日本人だと信じて疑いませんでした。ある時、父から

「お父さんとお母さんはベトナム人だから、君もベトナム人なんだよ。」と、聞きました。話してもらった頃は幼かったので、そんなに気にしていませんでした。ただ、年齢があがってくるにつれて、日本語で話すわたしと、ベトナム語で話す両親とのコミュニケーションがとりにくくなり、伝えたいことがうまく伝わらなくて、もどかしくて腹が立って、でも伝えたくて…そんな日々の中で、自分や家族が日本にいる訳を、以前より深く知りたいと思うようになってきました。

先日、学校支援者の方の話を聞きました。

その方は、わたしと同じベトナム人です。十五歳の時に、日本に来たとのことでした。その話を聞いて、わたしも家に帰って聞いてみたら、

両親も戦争の関係で日本に逃げて来たのだと話してくれました。それで、わたしはやっと、わたしたちベトナム人がどうして日本にいるのかが分かり、ほっとしたような、すっきりしたような気持ちです。

わたしは将来、日本で暮らしたいと思っています。

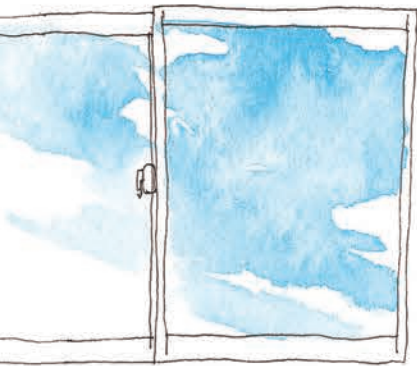
なぜなら、日本での生活に夢や希望がたくさんあるからです。

そして、今、わたしは、ベトナム人として日本に住むのが、日本人として日本に住むのか、どちらが自分の生き方に合っているのかを考えています。今は答えが出ません。だから、ゆっくり時間をかけて、これから考えていけばいいと思っています。

わたしたちには未来があります。

大切なのは「日本人だから」とか、「ベトナム人だから」ということではなく、未来に向かって夢をもってがんばることだと思うのです。

そしてそのがんばりを同じ人間同士、応援したり、認め合ったりすることが、お互いを理解することになり、やがて、国際平和につながっていくのだとぼくは考えます。



# 7. 日本にも難民はいるの？

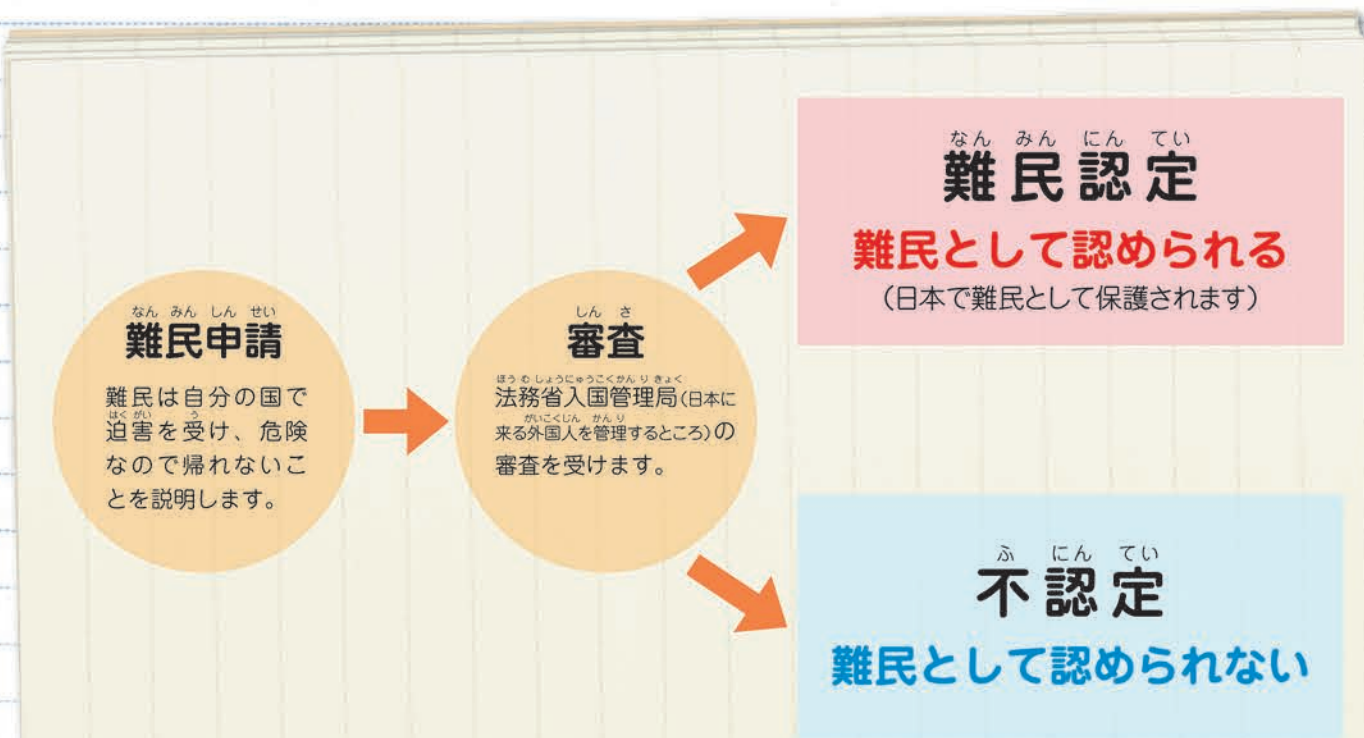
日本にも命がけで自分の国から逃げて来た難民の人たちがたくさんいます。

そのように逃げて来た難民の人たちを守る約束をしている日本※には、その人たちを守る義務があります。※日本は《難民条約》に1981年に加入しました。P.9を参照。

では、日本はどのように難民の人たちを守っているのでしょうか？

とても危険な思いをして日本に到着をした難民は、すぐに安心できるわけではなく、自分を難民であることを説明し、日本政府に認めてもらわなくてははいけません。

この手続きを《難民認定》と呼び、次のような手順で進みます。



難民認定は長い時間かかってしまうこともあります。

その間、難民は働くことができない人も多く、不安な毎日を過ごしています。

家族と離れてしまった難民は家族の安全を心配しながら、少しでも早く、

一緒に生活したいと考えているのです。



UNHCRは日本の政府をはじめ、NGO※1、民間や他の国連機関など多くの団体と協力して活動しています。こうしたパートナーシップを通じてはじめて総合的で効果的な難民支援ができるのです。たとえば日本では…

## 政府の活動について

日本政府はODA※2やJICA※3などを通じ、難民支援を積極的に行っています。特にUNHCRの活動に多くの資金援助の面からもサポートをしています。

## NGOの活動について

日本でも多くのNGOが難民支援を行っています。たとえば、

- 生活の支援をしています。
- 難民申請の相談にのっています。
- 自立に向けて、日本語の勉強や技術支援をしています。

※1 非政府組織 (Non-Governmental Organizations)  
 ※2 政府開発援助 (Official Development Assistance)  
 ※3 独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency)



# 8. いま、日本からできること

難民はUNHCRなどの国際機関、政府やNGOの支援を

受けながら緊急の危機を乗り越えていきます。

しかし、いつまでも難民のままであってよいわけが

ありません。そこでUNHCRでは3つの解決策を

目標としています。

## a 本国への帰還

難民にとって、自分の国に帰り

家族と一緒に生活できれば、

どんなに幸せなことでしょう。

安全に帰国し、生活できるよう

になれば帰るための

手助けをします。



## 庇護国での定住

逃げた国で生活し、  
自立できるように  
当事者たちと  
話し合います。

# b

## c

## 第三国への定住

本国、庇護国以外の国で

生活できるように

各国政府と

話し合います。



考えよう!

ここまで読んで、どんなことを知り、感じ、考えましたか？

「あまりにも問題が大きくて何もできそうにないな」と思った人も  
いるでしょう。

しかし難民問題は人間が起こしている問題なので人間が解決できるはずなのです。

思い切って一歩を踏み出してみよう！

自分のできること、みんなのできることを探してみよう。

## たとえばこんなことができます

- 難民問題に関する資料を読む。  
そのことを家族や友達に話してみる。
- ホームページで調べてみる。
- 文化祭や地域のイベントなどで  
自分たちの調べたことを発表する。
- 「世界難民の日」が何月何日が  
調べてみる。

他には？



やってみよう!

# 9. UNIQLOから できること

ユニクロでは着なくなったユニクロの洋服などを回収する、「全商品リサイクル活動」を実施しています。

ユニクロで働いている人が自ら現地まで届けています。



6 難民キャンプへ

7

伝える

難民キャンプでみたこと、感じたことをたくさんの人に報告し、次の活動につなげていきます。



ユニクロの服を買う

2 大切に、長く着る

着なくなったら、店舗にもどす



3 いつでもユニクロ全店で着なくなった洋服を預かっています。洗濯をしてから持っていきましょう。

3 RECYCLE  
燃料化・繊維化  
リサイクル(約1割)

リユースできないものは、工業用繊維や電気エネルギーなどとしてリサイクル



4 3で預かった洋服をユニクロが「まだ着られる・もう着られない」に分ける



5 服の届け先を決める

REUSE

季節、男女、大人用・子ども用、上下など種類別に分ける

このように洋服を分けることで集まったユニクロの服を必要としている人たちに届けることができます。



このページの人たちは、日本から届いたユニクロの服を着ています。

「服」は「服」のまま役立てたいという思いから、ユニクロで販売する全商品を回収し、キャンプへと届けています。



ユニクロは難民や避難民などに洋服を届けることには8つの意味があると考えています。

- ① 安全・衛生
- ② 防寒・防暑
- ③ 教育の機会
- ④ 尊厳

---



---



---



いままでユニクロがUNHCRや他の団体といっしょに洋服を届けた国と服の数を調べてみよう!



か国

ちやく着



みなさんでこの8つの意味について考え、話し合ってみましょう!

- ⑤ 女性の社会参加
- ⑥ 自立
- ⑦ 環境負荷低減
- ⑧ 生活の潤い



# 10. あなたはどのタイプ?

A: YES →→  
B: NO →

まいにちつうがく おうふく  
毎日通学で往復  
40分以上歩いている。

A: YES  
B: NO

START

どちらかというと  
勉強するより  
運動する方が好きだ。

A: YES  
B: NO

けいたいでんわ  
携帯電話は:

A: メールが多い  
B: 通話が多い

しゅうまつ けいぞく ゆうえんち  
週末、家族で遊園地に  
行きました。  
にゅうじょう  
入場したあなたは:

A: 手当たり次第、  
のりものに乗っていく  
B: 地図をチェックして  
順番に乗っていく

い いんちよう え  
クラス委員長に選ばれた  
あなた。  
クラス委員長として:

A: どんどんクラスを  
引っばっていく  
B: クラス全体で話し合っ  
てすすめていく

テスト前日、友人に  
「勉強しよう」  
と誘われました。  
あなたは:

A: 一緒に勉強する  
B: 一人で勉強する

**行動派**のあなた **さんか**  
イベントに**参加**しよう!

イベントなどに参加して、どんどん**なんみん し えん** 難民支援のプロに近づいていこう! 家族や友達ともだちのユニクロの服ふくをお店みせに持って行くのも大きな一歩です。

**勉強派**のあなた **なんみについで**  
**勉強**してみよう!

なぜこのようなことが起きてしまうのか、たくさん考えてみよう。きっと世界で起きていることが見えてくるはずですよ。  
※UNHCRのホームページには《資料コーナー》があります。

**コミュニケーション派**のあなた **けいぞくやともだちに**  
**話**して**ひろめて**いこう!

まだまだ知られていない**なんみん** 難民問題。一人でも多くの人に知ってもらい、助け合えることができれば、難民の**ささ** 支えとなる大きな力になるはずですよ。

しらべ  
よう!

UNHCR [www.unhcr.or.jp](http://www.unhcr.or.jp)  
国連UNHCR協会 [www.japanforunhcr.org](http://www.japanforunhcr.org)  
UNHCR難民映画祭 [unhcr.refugeefilm.org](http://unhcr.refugeefilm.org)

想像してみてください。

家族や友人に囲まれ、ずっと平和に暮らしてきたあなたの生活が、もし、突然すべて変わってしまったとしたら……  
長年の隣人同士が、一夜にして憎しみあうようになる。道路を戦車が走り回り、いつも乗っていたバスが燃えている。  
迫撃砲を打ち込まれた家を見る陰もなく、教会の鐘の音もロケット弾の轟音にかき消されてしまう。

突然、見なれた人や物が消え、愛する人まで失ってしまった。  
たとえ、運よく生き残れたとしても、気がつくとも異国の地で途方にくれている。

あなたは「難民」になったのです。どんな気持ちでしょうか。

「難民」といっても、あなたや私たちとなんの違いもありません。  
ただ、彼らは何もかも失っただけ。私たちの助けを一刻も早く必要としているのです。

そこで皆さんに一つだけ、お願いしたいと思います。

もし、あなたが難民に出会ったら、ほんの少しの間、  
彼らの境遇を思いやって微笑みかけて下さい。知らん振りをして。

ささいなことに思えるでしょうが、  
難民にとっては、このうえもない支えとなるのです。

難民 (Refugees) 1998年第1号(通巻108号) UNHCR/国連難民高等弁務官事務所、カウチ

※この冊子は(株)ユニクロの支援によってつくられました。

UNHCR(ユー・エヌ・エイチ・シー・アール/  
国連難民高等弁務官事務所) 駐日事務所

〒107-0062  
東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター  
TEL 03-3499-2011 FAX 03-3499-2272  
URL [www.unhcr.or.jp](http://www.unhcr.or.jp)

発行・編集・デザイン UNHCR駐日事務所  
絵 金子恵  
制作・AD (株)須田製版

2010年4月 第1刷発行・2012年12月 第3刷発行

掲載記事の転載を  
ご希望の方は、  
UNHCR広報室へ  
ご相談ください。

P.3 CUNHCR/H.Caux/2009 CUNHCR/R.Arnold/2008  
CUNHCR/E.Hockstein/2009  
P.4 P.5 CUNHCR/R.LeMoyné/1999  
P.8 CUNHCR/P.Maumtziš/1995 CUNHCR/J.Redden/2007  
CUNHCR/R.Chelassani/2003 CUNHCR/N.Ng/2008  
CUNHCR/B.Bannon/2006 CUNHCR/T.Makeeva/2003  
CUNHCR/J.Björnvinnson/2005  
P.16 CUNHCR/A.Branthwaite/2006  
P.17 CUNHCR/L.Slezic/2004 UNHCR/J.Rae/2006  
P.18 P.19 写真提供 (株)ユニクロ ©上岡伸輔/2009  
P.20 P.21 ©上岡伸輔/2008-2009